

3 地域福祉の推進

<基本計画の目標>

だれもが住み慣れた地域での支え合いにより、安心して豊かな生活を送るためのまちづくりをめざします。

<目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

市民満足度	当初値	H18 実績	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 目標値	H22 実績	H23 実績	H27 目標値
「鎌倉市は、地域福祉活動（福祉ボランティア、互助会など）へ参加できる環境が整っているまち」と感じている市民の割合	39.7%	42.7%	40.7%	47.2%	45.6%	50.0%	48.9%	46.4%	60.0%

<6年間の取組の評価>

【健康福祉部】

地域福祉計画を再編し、鎌倉市健康福祉プランへ取り込んだ地域福祉に関する行動計画の実現のため、平成19年6月から「支え合う地域づくりプロジェクト」を組織し協議を重ねてきました。協議の中で、具体的な地域福祉の推進のツールとして専門のコミュニティーワーカーを配置した「地域福祉支援室」を市社会福祉協議会との協働事業として平成21年4月に立ち上げ、①地域福祉活動の情報収集②地域課題の解決と地域福祉活動に関する懇談の場づくり、③福祉人材の発掘、育成を主な活動の柱として実施し、現在に至っています。満足度については、年ごとに若干の増減が見られますが、当初値と平成23年度の実績値の比較では約7ポイントの伸びであり一定の評価は得ているのではないかと推察しています。

<今後の方向性>

【健康福祉部】

地域福祉支援室の活動は、今後も上記①～③の3本柱を基礎として、小地域を基盤とした福祉ニーズの把握と、活動の充実を図ると共に、地域に身近に相談できる場所を設置し、支援が必要な人へ適切なコーディネートができるよう、研究・検討していきます。

鎌倉市民評価委員会の評価

《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

- ・地域福祉支援室を市社会福祉協議会との協働事業として立ち上げている。地域情報収集、地域課題の解決と福祉活動に関する懇談の場、福祉人材の発掘、育成を行っていることなどは評価できる。
- ・地域福祉の充実のための6年間だったと思うが、その成果を図る指標が地域福祉ボランティア団体構成員数で示され人数も横ばいであり、十分だったとは言い難い。
- ・地域のことは地域で行うのが自然で、自治・町内会、ボランティア団体、NPO団体、実行委員会他との連携を進めてきた。
- ・福祉人材が不足している今日、満足度が当初より約7%増加している点、関係者の努力を評価する。但し、平成22年度目標値50%に達せず、市民の半数に満たしていないのが残念である。
- ・具体的な取組内容が日々の生活の中で見えてこない。高齢者福祉に偏っているように感じる。
- ・支援、参画、提供といった取組であり、その内容が不明確なため評価が困難である。

評価の内訳(委員数)						⇒	評価委員会の評価
◎	0	○	5	△	3		○

《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

- ・地域福祉を充実させて、地域で自主的な福祉サービスを行う必要がある。NPO連携、ボランティア育成など課題はあるが、高齢化の進む中では早い対応が求められる。
- ・地域福祉のための特別な組織というよりは、自治会等、すでにある組織の中に地域福祉の機能を取り込んでいけばよいのではないかと。
- ・鎌倉市福祉センター内の地域福祉支援室の活動は今後も期待できるが、今までの活躍は、市民によるプロジェクトチームの活躍によるところであると考え。プロジェクトチームが活躍するために地域福祉支援室が行うべきこと、行ったことを明確にしていきたい。
- ・社会情勢の多様化の要請にこたえるべく、支所と健康福祉部他が協働して活動を進める必要がある。
- ・事業を推進するための福祉人材の育成が必要である。
- ・震災後、若い世代もボランティア活動に参加するようになってきている。できることをできる範囲ですることが大切である。
- ・小地域の見守り活動、世代間交流事業など、福祉関係機関との連携、情報提供の充実に努めた。在宅高齢者生活支援サポーター養成講座の他、各種研修会を開催し、参画等を行っている。
- ・地域の課題は福祉に限られたものではなく、様々な課題を包含している。したがって、地域運営組織(仮称)を確立し、その下で福祉も取り上げられていることが望ましい。
- ・ボランティア活動は個人情報の壁などから難しいことも多い。行政が橋渡しをして地域の支え合いがスムーズに行われるように導いてほしい。
- ・ボランティアの構成人数が減少傾向にあることなど、地域福祉懇談会、地域ケア会議を、より活発に、未実施の地域で開催する支援を行っていく必要がある。福祉活動の推進役となる人材を発掘、育成する必要がある。
- ・地域福祉支援室の今後の取組に期待する。

《この分野に関する総括意見》

- ・地域福祉に限らず、地域の課題を地域で解決していくことが重要であり、「市民参画・協働の推進」、「コミュニティー活動の活性化」等の分野を一本化し、地域力の醸成・強化をめざす、まちづくりの土台(ファンダメンタル)とすべきである。
- ・一方、福祉については、自治町内会やボランティア団体に限らず、教育や子育ても関するもの等様々であり、それらのバランスを考慮しながら推進していくものでもあるため、特に地域にとらわれず、「健康福祉」の分野を中心に、統括的に実施すべきであるという考えもある。
- ・高齢者が増えるこれからの鎌倉において、若い人たちとの協働を含め、地域でどのように進めていくかは重要な課題である。
- ・地域力にどこまで任せればよいのか、地域福祉にかなりの格差が生じないか、行政サービスの公平性を保つ観点から行政の役割・関与と地域福祉のあり方を問うてみたい。